

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

2025年4月17日(木)15:30~17:00 懇談会

1. 挨拶（新館長挨拶）

●4月1日に就任した新館長の関雄二よりご挨拶申し上げます。

— 関 雄二（館長） —

2. ニュースリリース

●みんなくの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子（議長） —

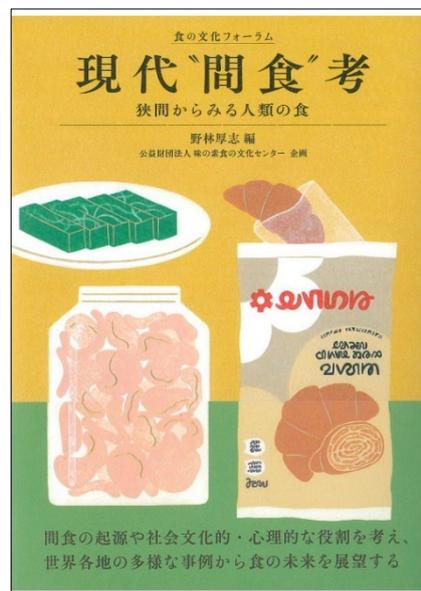
3. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

『現代“間食”考 狭間からみる人類の食』

（野林厚志 編／平凡社）

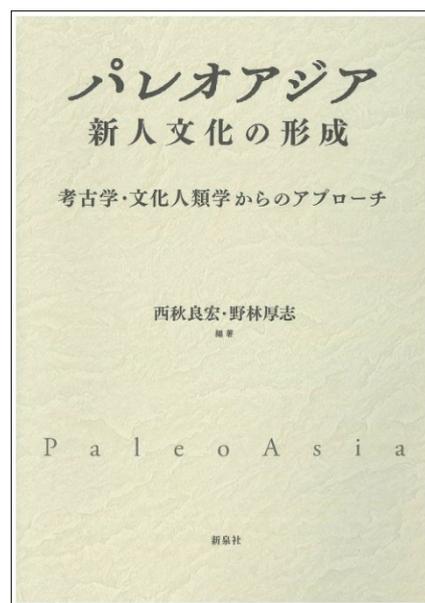
「間食」とは何か？ 霊長類学、民俗学、文化人類学、心理学、栄養疫学などの多角的視点から、間食の起源と歴史、現代社会における意味を考察する。間食という日常的な行為から人間の食の本質に迫る。



『パレオアジア——新人文化の形成』

（西秋良宏、野林厚志 編／新泉社）

ネアンデルタール人やデニソワ人ら旧人たちが生きていた時代のアジアで、新人たちは、いかに適応し、旧人集団と交替したのか。太古の交替劇を過去と現在の文化の証拠をもとに考察する。



— 野林 厚志（グローバル現象研究部 教授） —

4. 新任紹介

名古屋大学大学院で博士号取得。日本学術振興会特別研究員 PD、名古屋大学高等研究院特任助教、日本学術振興会海外特別研究員、金沢大学准教授を経て現職。古代メソアメリカ文明の盛衰と環境変化の因果関係に関する考古学的研究に取り組んでいる。



— ^{いちかわ あきら}市川 彰 (超域フィールド科学研究部 准教授) —

京都大学大学院で博士号を取得。民間企業勤務、京都大学アフリカ地域研究資料センター特任研究員、日本学術振興会特別研究員 PD を経て現職。西アフリカのセネガル共和国におけるイスラーム教団を対象に、現地語のウォロフ語で語られる口頭伝承と、アラビア語や公用語フランス語で書かれた文書との相互関係についての文化人類学的研究に取り組んでいる。



— ^{いけべ ともき}池邊 智基 (人類文明誌研究部 助教) —

筑波大学大学院で博士号を取得後、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター非常勤研究員、人文社会系特任研究員を経て現職。ルーマニアの孤児を対象に、孤児たちを取り巻く社会・文化的環境と、子どもたちのエージェンシーに関する研究をおこなっている。



— ^{あさだ なおき}浅田 直規 (超域フィールド科学研究部 助教) —

みんなく創設 50 周年記念企画展

「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」

現在開催中の企画展の見どころを展示場にて解説します。
(ZOOM でのライブ配信も予定)

会 期：2025 年 6 月 17 日(火)まで
会 場：国立民族学博物館 本館企画展示場
観覧料：一般 580 円 (490 円)、
大学生 250 円 (200 円)、高校生以下 無料
※ () は 20 名以上の団体料金 /
リピーターは団体料金を適用
※本館展示もご覧いただけます



— 相島 葉月 (グローバル現象研究部 准教授) —

※その他の配布資料 外来研究員受入一覧 (資料4)



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp